沖縄県（グループホーム　イジュの花）

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来、入居者の尊厳や基本的人権の尊重と安心した暮らしを支えていくサービスとして理念を作り上げている。	○	これまでの理念に新たに地域密着型サービスに沿った理念の構築を行なった。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者、管理者、職員、皆で食前や行事等に理念を唱和し理念の共有、実践に向けて意識付けを日々行なっている。	○	これまでの理念に新たに地域密着型サービスに沿った理念を構築し、利用者、管理者、職員、皆で共有、実践に向けて日々取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域活動を大切にし、地域の集まりやイベント、行事へ参加し地域住民としてご理解いただくよう取り組んでいる。	○	利用者が地域行事に参加している場面や地域の方と触れ合っている場面をホーム便りに掲載したり、スライドショーとしてDVDにまとめホーム誕生会や敬老会等に上映し家族や地域の方にお伝えしている。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所への散歩や買い物、入居者が出かける先々で触れ合う方達に「気軽にホームにお立ち寄り下さい」と日常的に声掛けを行なっている。また、ホーム見学者や利用申込者家族にも声掛けを行っている。	○	隣近所に住む歯科衛生士の方より声を掛けて頂きホームにて利用者の義歯の管理や清掃の仕方、唾液のマッサージ、お口の体操等について入居者と共に学習を行なった。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の高田自治会に加入し、清掃活動や親睦会、夏祭り、高田自治会敬老会等、地域活動に積極的に参加し交流を深めている。また、ホーム誕生会や敬老会等に地域の方の参加を頂き祝福して頂いている。利用者の中で近所の美容室を日常的に利用され交流を深めている方もいる。	○	地域の保育園児達の定期的訪問による交流や保育園の夏祭り、敬老会、にご招待を受け、外出し交流する場面がある。また、地域行事やイベント、スーパーの買い物等にて人と触れ合う場面をつくっている。

記入日：平成21年1月28日

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム機能を生かし地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか模索しているが、実施できなかった。	○	地域の方と認知症についての勉強会や暮らしに役立つ情報の提供など取り組む。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価を実施し、ケアの振り返りを行い改善点について意識付けを行なっているも、評価項目内容の理解が出きていない箇所がある。	○	改善できる項目から取り組み始めている。定期的に自己評価票の項目内容について学習し、全項目理解出来るよう取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、運営推進会議を実施し、利用者の状況、ホーム活動報告等行なっている。平成１９年度の外部評価報告も行い、御意見を伺っている。	○	二ヶ月に一度の運営推進会議を開催、定着しているが、利用者の状況、ホーム活動を報告する報告会になっていないか、委員の方との活発な討議が出来るよう取り組みたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護長寿課や福祉課に必要な書類の提出を行なっているが、それ以外、行き来する機会がなく、時折り、包括支援センターの職員より入居者の空き状況について問い合わせがある。	○	市の包活支援センターに医療連携加算について、問い合わせを行なったが、市も勉強中であるとの回答であった。引き続き、連携をとり医療連携加算について学びたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内研修で受けた認知症高齢者研修会の『認知症の人の生活支援について』にて権利擁護、社会資源の活用を考えるという内容で学習を行なった。	○	今後、必要な事例について検討していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内研修で受けた認知症高齢者研修会の『認知症の人の生活支援について』にて権利擁護、社会資源の活用を考えるという内容で高齢者虐待防止法や特徴について学習を行なった。	○	一人ひとりが、尊厳ある暮らしがおくれるよう、高齢者虐待関連防止法令について定期的に勉強会を行なう。

記入日：平成21年1月28日

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、契約書、個人情報に関する同意書をご家族に説明し、御家族に説明不足がないか、再度確認し同意を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や不満については日常的に傾聴し、できる限り利用者の意向に沿うように努めている。また、毎回ではないが、利用者の代表が運営推進会議で発言する機会がある。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時や電話連絡、ホーム便りにて定期的に報告を行なっている。利用者の特変時は、その都度、電話連絡や面会等お願いしている。	○	利用者の暮らしぶりについて、スライドショーにして、敬老会や個々のお誕生会等に上映しお伝えしている場面がある。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理箱や苦情処理委員会を設置しているも投稿や苦情の訴えが少ない、運営推進委員会にて家族代表に時折り、苦情等伺うも特にご意見なく他の方法で家族の本音を聞けないか模索している。	○	母の日の集いに家族へアンケートを実施しホームへの意見を伺う機会をつくった。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度行なっている職員定例会にて、法人の事務長補佐を交えて意見交換を行なっている。	○	事務長補佐が 管理者、職員の意見や要望等、運営者に伝え取り組んでいる。予算面や時間を要するものもある。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯に職員を確保する事が出来ないが、業務や勤務時間の見直しを行なう等して対応している。夜間帯は管理者、ケアマネジャーが必要に応じて対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職、移動は最小限に抑え、入居者のダメージを防いでいるも、健康上の理由にて2名の職員の離職があった。		

記入日：平成21年1月28日

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修にて、認知症指導者による認知症高齢者に関する研修会を、６月、８月、１１月の3回に亘り学習する機会があった。	○	法人内研修にて受けた認知症高齢者に関する学習会を職員定例会でも再度、勉強し認知症高齢者について理解を深めた。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県のグループホーム連絡会に加入し交流、及びサービスの質の向上に向け情報交換を行なっている。地域では、他のグループホームと入居者、職員同士交流会を行なったりしているが職員同士の勉強会等の計画はあるも実現にはいたっていない。	○	地域同業者の交流や介護者研修会等の実施に向け取り組みたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月に一度の職員定例会にて事務長補佐が職員の悩みや要望、提案を聞く機会を設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員の勤怠を管理し個々の努力に答えるよう年２回の賞与に反映されている。各自が働きがいのある職場に取り組んでいる。	○	職員の個々の能力、成績、実績の人事考課で個々の努力に答えていく。
Ⅱ安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族には、ホーム見学時や入居の相談、申し込み時に、なるべくご本人と一緒にホームに来て頂き、ご本人の意向をお聞きする様、努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学者や利用相談、申し込み時に、ご家族の意向をお聞きしている。又、入居までの間、ご本人と一緒に気軽にホームに立ち寄って下さいと、ご家族に声掛け行なっている。		

記入日：平成21年1月28日

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の必要とする支援を見極め居宅事業所と連携しながら必要に応じて他のサービスの対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学や、利用申し込み時にホーム利用者とお茶を共にしたり、お喋りする場面をつくっている。利用開始時は、ご家族の面会を増やしたり、泊まって頂く場合がある。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	もやしのつくろいや、洗濯たたみ、一緒にコーヒー等を飲みながら、利用者の昔話しや苦労話しを傾聴する場面があり、その中で生活の知恵などを学ぶ事がある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホーム行事や個々の誕生会等、ご家族も出来るだけ声掛け参加を促し、利用者、職員、皆でお祝いし祝福している。また、利用者がご家族の事を心配したり、自宅の事が気になったり不安な時等、ご家族の声を聞かせてもらったり、面会等、ご家族の協力を得ながら支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者、ご家族、職員、皆がひとつの大家族的な付き合い関係を目指している。ご家族の面会時は利用者を交えて、ご家族、職員が気軽に会話できる関係を築いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後も以前と変わりなく週2回、教会へ出かけ信者のお友達と交流出来る様、送迎等支援している。以前住んで居た町や馴染みの場所に出かけ知人に会う事もある。自営業で忙しく面会にこれない家族へはドライブを通してご家族に会いに出かけたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う同士、ソファーに座ったり、一人ひとりが孤立しないよう職員が間に入って話しの橋渡しをするなど、利用者同士コミニケーションが取れるよう努めている。利用者同士、支え会う場面もある。		

記入日：平成21年1月28日

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用期間が終了しても、再度、利用希望の方には申し込み書をお預かりして継続的に関わっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動より、一人ひとりの思いを把握し、出来るだけご本人の希望、意向に沿う様、ご家族の協力を得ながら支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や自宅訪問時、カンファレンス等にて、ご家族にお聞している。ご本人には日常生活の中でお伺いしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、野菜の下ごしらえ、洗濯物たたみ、お膳拭き、塗り絵等、ご本人に出来る事を促し支援している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ご本人が出来る事や楽しみ事、ご本人が自分らしく暮らすにはどうしたらいいか、ご本人、ご家族、職員で話し合い介護計画を作成している。	○	作成した介護計画をご本人、ご家族、職員で共通理解に向けて取り組み行なう。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の状態の変化に応じて見直しを行なっている。	○	見直しした介護計画をご本人、ご家族、職員で共通理解に向けて取り組み行なう。

記入日：平成21年1月28日

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日常生活の記録が多く、介護計画に沿った記録の記載が少ない。	○	日常の生活での気づきや、個々の介護計画に沿った記録の記載が出来るよう取り組む。また、グループホームでの介護記録の書き方について勉強中である。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の急な入院時に短期入所をスムーズに開始出来るようになり、柔軟な対応が出来るようになった。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方の関わりにより、地域行事への参加や夜遅くまで、祭りを楽しんだりしている。また、ボランティアや保育園、教会の子供達と定期訪問や触れ合う機会を大切にしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	老人福祉センターの趣味のクラブの中の社交ダンスクラブを利用した事がある。	○	現在は本人の状態により、社交ダンスクラブにて踊る事は出来ないが、今後は本人の状態を見極め見学等できないか検討する。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護等、事例が発生した場合に協働して対応する体制がある。また、ホーム運営推進委員として地域包括支援センターの所長様にご意見を頂いたり、相談ができる。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけの医療機関にて定期受診を行なっている。受診時、ご家族対応出来ない場合はホーム対応にて行い、車椅子の方は、リフト車にて対応している。		

記入日：平成21年1月28日

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	県立病院の精神科を受診している利用者がいる。精神科医に定期的に利用者の状態に応じて報告、内服の調整をおこなっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに看護師が常勤しておらず、同法人の看護職員に利用者の特変時等、相談し助言を頂いているも、常時、連絡がとれる体制がなく利用者の高齢化に伴い、不安がある。	○	利用者の日常の健康管理や医療面の相談等、同法人の訪問看護スティションとの連携がとれないか検討する。市へ医療連携加算について相談している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が急な入院による環境の変化に混乱しない様、馴染みの職員が面会したり、ホームでの生活状況を病院関係者と情報交換する事により、早期退院に向け協同している。糖のコントロールが悪く、インシュリン注射を検討された利用者がいたが、ホームで対応出来る様、内服薬にて治療可能となり、早期に退院する事が出来た。また、退院前に、同法人の管理栄養士に糖尿病食について助言を受けた。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は併設の老健施設との連携体制がある。その為、ターミナルケアについて現在も体制がなくホームの出来る事と出来ない事をご家族へ説明を行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合は併設の老健施設との連携体制がある。その為、ターミナルケアについて現在も体制がなくホームの出来る事と出来ない事をご家族へ説明を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退所時に受け入れ先の病院、施設等に情報提供を行なっている。併設の老健施設の入所された、利用者にはお会いする機会が多く交流がある。		

記入日：平成21年1月28日

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの気持ちに寄り添うケアをめざしているが、本人の言葉を否定したり、強い口調で対応している場面がある。	○	本人の言葉や行動に共感や思いやりを持ち、一人ひとりの気持ちに寄り添える言葉掛けができるよう、BPSDや虐待について勉強会を行なう。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりのわかる力に合わせて、飲み物の選択やトイレ誘導時、入浴への声掛け等、自分で決められるよう促している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に配慮しながら、一人ひとりのペースを大切にしている。新聞を読む事を日課にしている人や、居室内テレビにて好きな番組を楽しんだり、フロア一内、それぞれが落ち着く場所で過ごしたりしている。外出が好きな方にはドライブ等行っている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	一日に何度も更衣し自分なりの服の組合わせを楽しんだり、外出時に娘さんと一緒に服を選んだり、起床時に髪の毛をセットしカチュシャーやヘアピンでおしゃれしたり、その人らしい見出しなみやおしゃれを楽しんでいる。美容室は行きつけのお店や近所の美容室に出かけたりしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を伺い、献立に取り入れたり、フーチバジュシーなど馴染みの料理を提供したり、誕生日、母の日、敬老会、お正月など、祝い膳をつくり、食事が、季節感や楽しみなものになるよう支援している。また一人ひとりの力量に応じて野菜の皮むき、配膳やお膳ふき等行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒー等、飲み物の提供を日常的に行っている。個々に要望があれば買い物に出かけている。家族が好きなお菓子やお惣菜を持参される場合もある。		

記入日：平成21年1月28日

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの状態に応じて、トイレ誘導やポータブルトイレでの排泄を支援している。	○	（スウエーデン式）個別排泄ケアシステムテーナを導入し排尿、排便の量やタイミングを調べ一人ひとりに合った個別の排泄ケアを行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や希望時間がある方には希望に沿って入浴を行っている。また、一人ひとりの体調に合わせて声掛けし、入浴を拒む人には言葉掛けの工夫やタイミングに合わせて入浴出来るよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室で眠れない方には本人が落ち着ける場所で対応し、飲み物を提供したり、タイミングを観てベット誘導している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽レクレーションや誕生会等で得意の三味線を披露する場面がある。挨拶が上手な方には行事等にて、利用者代表挨拶をして頂いている。塗り絵が好きな方には塗り絵を、巻き寿司の得意な方には巻いて頂いたりと一人ひとりの力量に応じて支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者の力量に応じて買い物支援している。好物を買ってきて欲しいとの注文がある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中、外へ出たくて玄関を出たり入ったりしている利用者に、自宅近辺や、娘さん宅へドライブに出かけたり、食材の買出し等、外出支援している。ご家族も時折、自宅やドライブ等協力して下さる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月一度、定期的に遠足や、ドライブ、イベント等に出かけている。浜下りの時はビーチに出かけ、梅雨時にはホーム名でもある伊集の花の花見に出かけている。		

記入日：平成21年1月28日

沖縄県（グループホーム　イジュの花）

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも、電話がかけられるよう支援している。相手の声が利用者に聞こえるよう音量を調節している。ご家族へかけて欲しいという要望が多く支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室やフロアーにて対応している。利用者も他の家族と顔馴染みの関係を築き一緒におしゃべりをしたりする場面がある。親戚や知人の訪問も数多くある。、		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットより転落の恐れがある利用者への対応として、ご家族ご理解のもと、３点柵にしている事例がある。また、転倒の危険は常にあるも、洗面台やソフャーの背もたれなど、何かに捕まって歩行できるよう工夫をしている場面もある。	○	介護保険指定基準にて禁止している身体拘束について勉強会を開き、自覚しない身体拘束がないか点検する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りにて対応しているも、エスケープがあり、玄関にセンサー設置している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は業務を行いながら、さりげなく利用者の所在を確認しているも、時折、エスケープに気づかない事がある。	○	職員間の連携にて見守りや、寄り添いを行い、利用者の安全に気をつける。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在は見守りにて危険を防止している。今後は一人ひとりの状態に応じて物品の保管、管理行う。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時は事故報告書にて再発防止に向け話し合い取り組み行い、再度、職員定例会にて職員へ周知しているも、転倒事故が防げない現状がある。	○	大丈夫だろうケアを見直し、一人ひとりの転倒予想リスクを検討し、常に職員間で連携し再発防止に努める。

記入日：平成21年1月28日

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	同法人の社内研修にて、AEDの使用方法と心肺蘇生の講習を受講した職員が後日、職員定例会にて学習会を行なった。	○	全職員が急変時に対応できるよう、定期的な訓練の実施について取り組みたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今回、はじめて消防訓練を実施し利用者の迅速な避難場所への誘導、非常時における通報方法の確認、消火器の使用方法について学習でき、訓練実施後の反省や問題点について収集できた。	○	今回、実施した消防避難訓練の反省や、問題点を生かし次回は夜間を想定した避難訓練を行い、日ごろより利用者を避難誘導できる方法を身につけるようにする。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入所時や、面会時等に利用者、一人ひとりに起こりえるリスクについて家族へ説明を行い、抑圧感のない暮らしを支援している。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	管理者やケアマネジャーは、利用者の体調の変化や異変時は職員より報告を受け、家族へ連絡、状態報告を行い異変時は速やかに、医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の目的、用法や用量については、個々のカルテにて確認できるも、利用者の全薬について周知が困難との職員の声があった。誤薬防止と内服後の症状の変化については確認している。	○	利用者全員のお薬の説明書を一冊のファイルにつづり、いつでも、薬の内容や副作用が確認出来るようにする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食材やミネラルの豊富な海草類を献立に多く取り入れているが、下剤調整をしている利用者が多く、朝の体操も傾眠者が多い。	○	朝食後なるべく、自然な排便が出来るよう、便器に座る習慣づけを行う取り組みはじめた。また、午前中のみ行なっていた体操を、おやつ前に再度、行ってみる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛けにて行なっている。出来るところは見守り、磨き残しは介助している。	○	

記入日：平成21年1月28日

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎食後記録し、個々の栄養状態や水分摂取量の把握に努めている。個々の状態に合わせて、かかりつけ医に相談したり、同法人の管理栄養士に相談し栄養の低下や脱水に気をつけている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症委員会を設置しているが、本年度は委員会の開催が少なかった。	○	定期的に感染症委員会を開催、予防策について学習を行い、職員間にて情報を共有し感染防止に努める。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の消毒、衛生管理は、毎食後行なっている。新鮮な食材を調達し提供している。	○	冷蔵庫の手入れをこまめに行い、食材の使用と管理に努める。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の入口に鉢植えを置いたり親しみやすい雰囲気づくりを行なっているも鉢植え等、台風の影響を受けやすい。	○	台風の影響で草花が枯れてしまう事が多い、手入れを定期的に行い草花を増やしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、利用者協同にて、季節感を表すカレンダーを制作しフロアーに掲示している。居室に馴染みの物を置いたり、壁に飾ったり居心地良く過ごせる工夫をしているが、雨漏り後の天井のしみが気になる箇所がある。	○	雨漏り後の天井のしみを除去し、居心地良く暮らせる様、取り組む。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファーを数多く配置しており、好きな場所で一人で過ごしたり、仲の良い同士で過ごせる場所がある。		

記入日：平成21年1月28日

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたタンスに、本人の織った織物で作った服を、収納し時折り、ファッションを楽しんでいる。また、自宅で使用していた、マッサージチェアーを活用している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適宜、換気を行い室内の温度、湿度計にて温度調整している。尿、便臭については、特に気を使い速やかに処理している。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、ベットやベット柵の位置、家具は、個々の身体機能に合わせて、配置し、転倒防止等、危険防止に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	のれんの色や柄などで自室とわかる工夫や、トイレに頻回に通う利用者にはトイレの近くに居室移動するなど行なっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周辺は、利用者が日常的に活動できる環境ではないが、畑の草花や利用者が植えたバナナの苗が成長し、実がたわわに実り、観賞し収穫できた。また、七夕には、ホーム前庭にてスイカを食べたり、花火を楽しまれた。		

記入日：平成21年1月28日

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

記入日：平成21年1月28日

沖縄県（グループホーム　イジュの花）

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

平均年齢92歳の高齢者が、高田地域の住民の皆さんに見守られ、穏やかに暮らしている。地域行事、催し物等の参加を通して色々な人との出会い、触れ合いを大切にしている。ご家族、友人、知人も気軽に訪問して下さり、共にお茶を飲みながら語り合う場面がある。また、子供達が大好きで、お孫さん、ひ孫さん、近隣の保育園児や教会の子供達の訪問時は笑顔が多くみられ、利用者が保育園児に会いに出掛ける事もある。その人らしい生活を支える為、教会へ通っていた利用者へ入所後も、教会の牧師さんや信者の皆さんと協力して外出支援を行なっている。特に、季節感を五感を通して感じて頂けるよう、お正月には、お節料理を楽しみ、浜下りでは、青い海、白い砂、浜の風を肌で感じ、梅雨時には伊集の花のお花見に出掛け、夏には地域のお祭りを楽しみクリスマスにはイルミネーションを見て感激するなど季節感を大切に支援している。また、祝い事は利用者、ご家族、職員、地域の方と共に祝い喜びを分かち合いながら生活している。

記入日：平成21年1月28日